

フェアプレイ
インタビュー
[カーリング]
ロコ・ソラーレ所属
藤澤五月選手



プロフィール
生年月日：1991年5月24日
出身地：北海道

2018年
平昌五輪
銅メダル獲得!



た3位決定戦は、緊張よりも楽し
い気持ちで上回っていました！
好きだという気持ち、
楽しい思い出を忘れないで
願っています。

どんなこともポジティブに楽しく

ミス責めるのではなく
原因を考える

2018年の平昌五輪で、カー
リング女子日本代表を銅メダルに
導いたのが、スキップ（主将）の
藤澤五月選手。スキップはチーム
の司令塔で、勝負を決める最後の
一球を行う重要なポジションです。
5歳からカーリングを始めた藤
澤選手は早くから世界で活躍して
きましたが、すべて順風満帆だっ
たわけではなく、ジュニア時代に
大きな転機があったと言います。

「当時、姉と同じチームでした。
ある大会で、後半の大事な場面で
姉がミスショットをしてしまい、
身近な存在というところもあって試
合中にもかかわらず怒ってしまっ
たんです。それがきっかけでチー
ムの雰囲気が悪くなり、試合にも
負けてしまいました」
藤澤選手は、この自身の言動を
今でも忘れることなく「失敗だっ
た」と反省します。
「ミスをしたくする人はいない。
ミスを責めるよりも、原因は何だっ
たのか、次はどう生かすかの方が
大事なんだと気付きました」

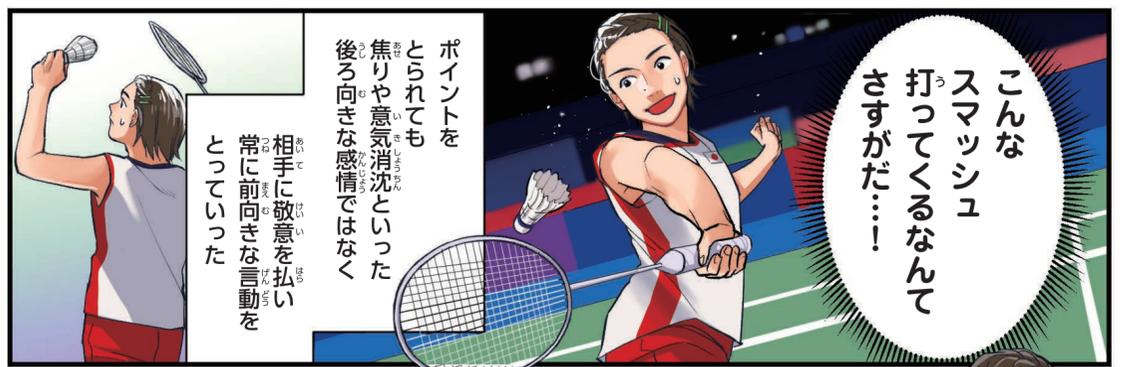
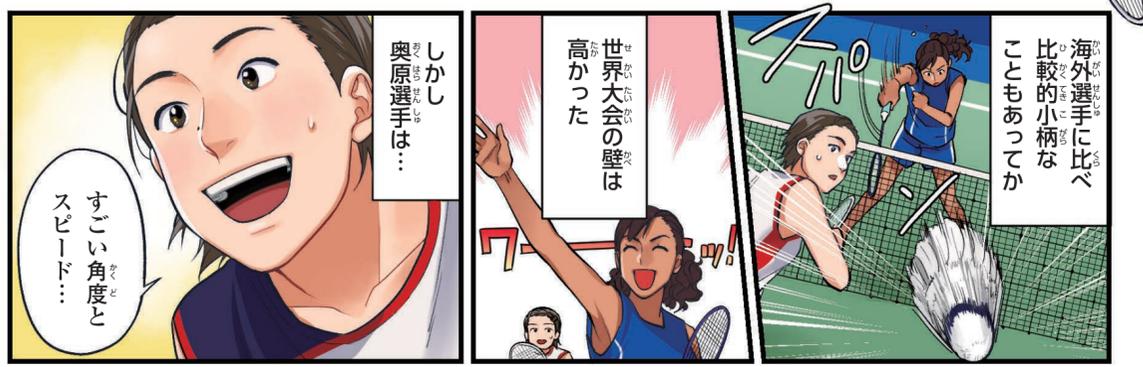
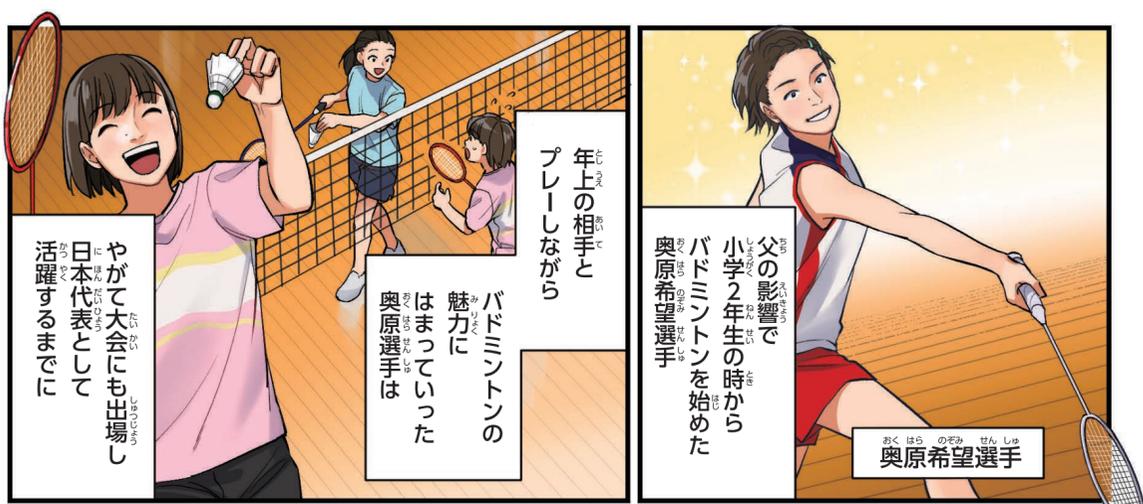
「どんな大会でもハプニングは付
き物ですが、以前、停電で試合が
3時間も遅れたことがありまし
た。集中が切れるような状況で
したが、それをマイナスに考えず
『少し長く休めてラッキー』とプラ
スに捉えることで乗り切りました」
この前向きな思考が、オリン
ピックという初めての大会でも
生かされます。
「平昌五輪・予選ラウンドの終盤、
連敗して落ち込んでいた時に応援
に来ていた家族と食事をしまし
た。励ましてくれるかと思ったら、
みんな韓国旅行を楽しんでいて
。母には『オリンピックに出て
いるだけでも十分じゃない』とい
うようなことを言われたんです。
それで、いろいろ悩むより楽しめ
ばいいんだと気持ちを切り替える
ことができました。メダルを懸け



「フェアプレイ
宣言」
しました!!

2020年は新型コロナウイルス
の影響で多くの大会が中止とな
りました。それでも藤澤選手はみ
なさんにも前を向いてほしいと
願っています。
「目指していた目標がなくなつて
しまい、私たち以上に悔しい思い
や辛い思いをしている人は多いと
思います。その中でも自分が
やってきたことへの好きだとい
う気持ち、仲間と過ごした楽しい思
い出は忘れないでほしいです」
どんな経験も人生の財産にな
り、前向きな気持ちは大きな原動
力になる。それは藤澤選手の歩み
が証明しています。

強さの秘訣は対戦相手への敬意



父の影響で
小学2年生の時から
バドミントンを始めた
奥原希望選手

年上の相手と
プレーしながら
バドミントンの
魅力に
はまっていった
奥原選手は

やがて大会にも出場し
日本代表として
活躍するまでに

海外選手に比べ
比較的小柄な
こともあってか
世界大会の壁は
高かった

しかし
奥原選手は…

すごい角度と
スピード…

こんな
スマッシュ
打ってくるなんて
さすがだ…!

ポイントをとられても
焦りや意気消沈といった
後ろ向きな感情ではなく
相手に敬意を払い
常に前向きな言動を
とっていた

ポイントをとられても
焦りや意気消沈といった
後ろ向きな感情ではなく
相手に敬意を払い
常に前向きな言動を
とっていた

バドミントンは
相手がいないと
成り立たない競技
だから相手を
敵ではなく
対戦相手として
リスペクト
してるんです

「みんなすごいけど
あるんだ」と
ポジティブになって

どんな時でも
相手をリスペクト
することが
奥原選手の
強さの秘訣なのだ